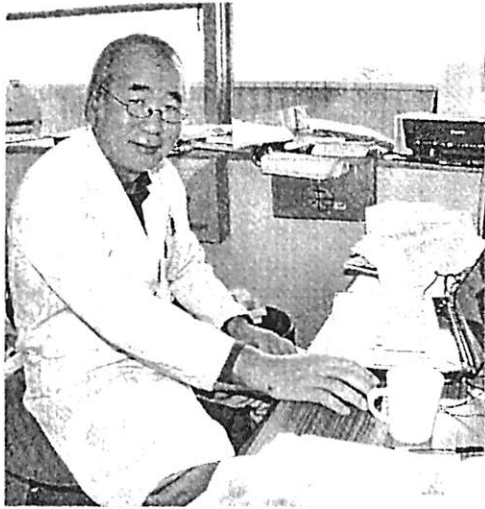


医療功労賞 県内から6人

長年、地域に根ざして活動してきた医療関係者を表彰する「第39回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)の受賞者が決まり、県内から6人が選ばれた。表彰式は3日午前11時半から、千葉市中央区のホテルプラザ菜の花で行われる。受賞者に喜びの声を聞いた。

救急医療体制を構築



船橋市立医療センター救命救急センター長

金弘さん 64

(船橋市大穴南)

1983年に設立された船橋市立医療センターの救命救急センター長として、救急医療体制構築に貢献。

センター敷地内に市消防局救急ステーションがあり、「重症救急患者発生」の119番で、医師が同乗した救急車「ドクターカー」が24時間体制で出動する「船橋方式」を確立した。「助かる命を救うため、

救命は早ければ早いほど良い。しかし、無償で働く少数の医師に頼る仕組みは長続きせず、医師にちゃんと報酬を支払える仕組みをつくらなければならぬ

い」。そう決意し、フランスなど諸外国の救命救急システムを学んだ。「そうした仕組みづくりを評価してもらい、うれしい」と喜ぶ。

97年頃から、ドクターカーに乗る医師にACLS(2次救命処置)を受講してもらい、救命率が上昇。現在、日本ACLS協会副理事長も務め、今後は市民にも受講を勧め、「市民から病院まで救命の連鎖をつなげたい」と望んでいる。